

「今後の県立高等学校の在り方に係る実施計画」の素案について

1 要旨

「今後の県立高等学校の在り方に係る実施計画」（以下「実施計画」という。）の策定に向け、素案を作成した。

2 実施計画の位置付け

本計画は、国において策定予定の「高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン（仮称））」を踏まえた「高等学校教育改革実行計画」であり、令和 6 年 3 月に策定した「今後の県立高等学校の在り方に係る基本計画（第 2 期）」に掲げる「県立高等学校教育の目指す姿」を実現するため、県教育委員会として推進していく具体的な内容を示すものとして策定する。

3 実施計画の素案

別紙のとおり。

4 今後のスケジュール（案）

令和 8 年 2 月 16 日（今回）：文教委員会（実施計画素案公表）
2 月 17 日～3 月 18 日：パブリックコメント
4 月：実施計画策定（予定）

今後の県立高等学校の在り方に係る実施計画
(素案)

広島県教育委員会

目 次

1 計画の趣旨等

(1) 計画の趣旨	1
(2) 計画の位置付け	1
(3) 計画期間	1

2 基本的な考え方

(1) 社会状況の大きな変化と高等学校教育改革の必要性	2
(2) 県立高等学校を取り巻く現状	2
(3) 県立高等学校が果たすべき役割	3
(4) 再編整備の方向性	4
(5) 統合校の特色化・魅力化	4
(6) 学科改編等による特色化・魅力化	5

3 実施内容

参考資料	33
------	----

1 計画の趣旨等

(1) 計画の趣旨

広島県教育委員会では、本県全体の教育水準の維持・向上を図り、一人一人が生涯にわたって主体的に学び続け、多様な人々と協働して新たな価値を創造することのできる人づくりを実現するため、令和6年度以降の県立高等学校の在り方を示す新たな基本計画である「今後の県立高等学校の在り方に係る基本計画（第2期）」（以下「基本計画」という。）を、令和6年3月に策定したところです。

今後、県内の児童生徒数が減少する中においても、基本計画に掲げる「県立高等学校教育の目指す姿」を実現するため、「今後の県立高等学校の在り方に係る実施計画」（以下「本計画」という。）を策定しました。

基本計画に掲げる「県立高等学校教育の目指す姿」

－ 生徒の学び －

未来に夢や希望を持ちながら学び、生徒一人一人が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を身に付けています。

－ 県立高等学校教育における人材育成 －

誰一人取り残さず、全ての生徒の可能性を引き出す教育活動の充実が図られるとともに、十分な教育効果をあげられる教育環境が整備されており、様々な分野で地域や広島、日本の成長・発展を担うことのできる人材や、世界を舞台に活躍できる人材など、多様な人材を育成しています。

(2) 計画の位置付け

本計画は、国において策定予定の「高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン（仮称））」（以下「グランドデザイン」という。）を踏まえた「高等学校教育改革実行計画」であり、基本計画に掲げる「県立高等学校教育の目指す姿」を実現するため、県教育委員会として推進していく具体的な内容を示すものとして策定するものです。

(3) 計画期間

本計画の計画期間は、令和8年度から令和15年度までの8年間とします。

なお、本計画の推進に当たっては、グランドデザインを踏まえ、令和22年（2040年）を見据えて改革を進めることとし、社会の変化や国における教育改革の動向など、高等学校教育を取り巻く状況等の変化等に応じて、本計画の進捗状況等を検証し、必要に応じて見直しを行います。

2 基本的な考え方

(1) 社会状況の大きな変化と高等学校教育改革の必要性

令和 22 年（2040 年）には、少子高齢化、生産年齢人口の減少、地方の過疎化が一層深刻化し、産業構造や社会システムの変化を踏まえた労働力需給ギャップや、理系人材不足が生じる可能性が指摘されています。

そうした中、高校生が高等学校で「自ら問いを立てる力」や「他者と共に価値を創り出す力」等を身に付け、希望する大学等への進学や就職等をし、生涯を通じて幸福に暮らしていくことができるよう、

① 不確実な時代を自立して生きていく主権者として、AI に代替されない能力や個性の伸長

② 我が国の経済・社会の発展を支える人材育成

③ 一人一人の多様な学習ニーズに対応した教育機会・アクセスの確保

の 3 つの視点から、更なる高等学校教育改革を進めることが求められています。

また、高齢化や人口減少といった課題に直面している我が国が、社会全体で課題を解決する構造へと変化を遂げ、持続的に発展する日本社会を実現するために、専門高校の機能強化・高度化、普通科改革を通じた特色化・魅力化、地理的アクセス・多様な学びの確保を通じた高校教育の転換により、高等学校が未来の労働市場、地方経済、イノベーションを興す力を底上げする起点としての役割を果たすことも求められています。

(2) 県立高等学校を取り巻く現状

① 少子化の進展に伴う、生徒数の減少

中学校 3 年生在籍者数は、昭和 63 年度の第 2 次ベビーブームのピーク（48,780 人）から減少し続け、令和 5 年度にはピーク時の約半数（25,234 人）となっています。今後も減少は続き、本計画の最終年度の令和 15 年度には、ピーク時の約 4 割（21,077 人）となる見込みです。

また、令和 6 年の広島県における出生数は、15,765 人であり、さらなる減少が見込まれています。

② 教職員定数の減少に伴い、学校再編が不可避

高等学校の生徒数が減少すると、教職員定数も減少します。教職員が少なくなると、例えば、多様な科目の設置が難しくなるなど、生徒に必要な教育環境を維持することが困難になります。

そのため、本県の教育環境を維持していくためには、急激な生徒減少期を迎える前の余力があるうちに、これからの社会に求められる高等学校の在り方を見据え、学校統合などの再編整備をしていくことが避けられない状況です。

③ 高校無償化の影響

いわゆる高校無償化^{※1}の影響などにより、私立高等学校の多くが所在する都市部を中心として、私学志向が高まっている状況があります。

④ 国における高等学校教育改革

令和 22 年（2040 年）には、エッセンシャルワーカーやいわゆる理系人材が不足することなどが懸念される中であって、国においては、高校無償化による影響が生じる公立高校等への支援の拡充を図るため、グランドデザインを策定し、「AI に代替されない能力や個性の伸長」「社会・経済の発展を支える人材育成」「多様な学習ニーズに対応した教育機会・アクセスの確保」に向け、都道府県の取組に対し、財政的支援を講じることとされています。

(3) 県立高等学校が果たすべき役割

県立高等学校には、今後の少子化の進展に伴い、生徒が減少する中であっても、高等学校教育の普及及び機会均等の確保の観点から、県内各地域にバランスよく配置するなど、全県的な視野に立って教育を提供することが求められています。

また、県立高等学校は、私立、市立及び国立高等学校と協力しあいながら役割分担を図り、広島県全体の教育水準の維持・向上に努めることが求められています。

さらに、社会の変化により、AI 等のデジタル技術を活用して、ものづくり等の地域産業の持続的な成長を牽引する専門人材（産業イノベーション人材やエッセンシャルワーカー等）や、地域に愛着をもって人の暮らしと安全を支え地域の持続的な発展を支える人材の育成など、県立高等学校に求められるニーズも多様化していることから、少子化が進展する中であっても多様な体験・学びができるよう学校の特色化・魅力化を図り、様々なニーズに応えられる教育環境を整備することが必要です。

※1 高校無償化とは、令和 8 年度から、国公立の高校や高等専門学校、専修学校（高等課程）などに通う学生を対象に、授業料を支援する「高等学校等就学支援金制度」の拡充（収入要件の撤廃）により、全ての家庭で高校の授業料が実質無償化されること。

(4) 再編整備の方向性

① 都市部（中山間地域以外の地域）

少子化が進展する中であっても、生徒が授業等において一定の選択幅を持つことができ、集団の中で切磋琢磨しながら多様な体験・学びができる環境を整えるため、令和15年度時点で基本とする学級数^{※2}を下回ることが見込まれる学校について、近隣校との統合など、統廃合を進めます。

なお、統廃合の検討対象とした学校のうち、令和7年度時点で入学定員が基本とする学級数を満たしている学校については、その学校が所在する市町が生徒数の確保に向けた取組（中学校における進路指導の充実、地域や地元企業等と連携した教育活動の充実等）を実施する場合は、その成果を検証した上で改めて検討します。

また、統合の実施に当たっては、地域のニーズや生徒・保護者の希望等に応えることができるよう学科を再編するなど、学校の特色化・魅力化を図り、新たな教育活動を実現するために施設の改修・改築を優先的に実施します。

② 中山間地域

中山間地域^{※3}の学校については、高等学校教育の機会均等の確保の観点から、本計画における統廃合の対象とはしません^{※4}。

(5) 統合校の特色化・魅力化

統合校においては、高校教育改革に係る国の財源も活用しながら、教育資源の集中により、次の①～③をはじめとした機能強化を図ります。

① 学科の枠を越え、総合的に学ぶことのできる複数の学科を有した学校の設置

地域産業界や高等教育機関等と連携しながら専門性の高い学びを行うとともに、学科横断的な学びにより、多様な他者と協働して、実社会の課題を解決する力を総合的に身に付ける総合型高等学校を設置します。

② 大学や企業等と連携し、実社会における課題について探究することで、創造性、協調性、社会参画意識を持った人材を育成する学科の設置

いわゆる普通科改革^{※5}の枠組みの中で、文理横断的な学びにより、実社会の抱える様々な課題の解決に向けて探究するなどの新しいカリキュラムを展開し、生徒の興味・関心に応じた質の高い探究的な学びを実現するために、県内の大学等との連携を強化した「新しい普通科（仮称）」を設置します。

③ 生徒一人一人の実態や学習ニーズに応じた教育活動を実施する学校の整備

様々な分野に興味・関心がある生徒、多様な文化的背景をもつ生徒、学びづらさを感じている生徒など、多様な生徒のニーズに応えるために、生徒が学ぶ方法、時間、場所などを柔軟に調整できるフレキシブルな学びを提供する学校を設置します。

※2 中山間地域以外の地域（都市部）は、1学年4～8学級の範囲内を基本とする。

※3 「中山間地域」とは、県の中山間地域振興条例第二条第一項に規定された地域のこと。

※4 1学年1学級規模校（都市部に立地するものを含む）については、基本計画に示す再編整備の検討基準に従う。

※5 「普通科改革」とは、「普通教育を主とする学科」の弾力化のこと。設置者の判断により、普通教育を主とする学科として「普通科」以外の新学科が設置可能となった。

(6) 学科改編等による特色化・魅力化

統合校以外の学校においても、高校教育改革に係る国の財源も活用しながら、次の①～③をはじめとした特色化・魅力化を図ります。

① 技術革新など新しいニーズに対応する専門学科の整備

AI 等の新技術への対応力など、これからの時代に必要な力を育成する新たな学科を設置します。

大学科	小学科	教育内容
農業	先端生産創造科（仮称）	高等教育機関や産業界と連携して、ICT、AI 等の先端技術により、次世代の農業の形を実現するスマート農業など、実践的な知識・技術を身に付けていく専門的な学び
工業	ロボット工学科（仮称）	ロボットやモビリティに関わる基礎技術と AI 等に関わる先端技術など、自動化機器の制御に関わる知識・技術を身に付けていく専門的な学び
	デザイン工学科（仮称）	建築・インテリア等の設計に関わる伝統技術と 3D デジタルデザイン等の先端技術を融合させて、新たな価値を創出していくための知識・技術を身に付けていく専門的な学び
家庭	生活共創科（仮称）	変化し続けるライフスタイルに着目し、衣・食・住・保育・福祉・消費生活・環境の領域を横断して、生活の質の向上に寄与する力を身に付けていく専門的な学び
情報	情報科学科（仮称）	企業や高等教育機関等と協働して、AI 等のデジタルの成長分野で求められる情報技術を活用する力を身に付けていく専門的な学び
理数	サイエンス科（仮称）	大学・産業界等と連携した共同研究を通して、最先端科学技術を用いた観察・実験や文理横断的な領域も含めた科学的な課題研究を行い、幅広い教養と科学的思考力を身に付けていく専門的な学び
体育	スポーツ科学科（仮称）	競技力を向上するとともに、専門競技の選手育成を支える専門家や指導者に求められるデータを科学的に分析し、パフォーマンス向上に活用する力を身に付けていく専門的な学び

② 地域産業界と連携した総合学科の設置

多様なキャリア志向の生徒が、地域産業界と連携して、最先端の技術に触れながら探究する実践的・体験的な学びを通して、多様な価値観に触れながら自身のキャリアについて考え、幅広い進路選択ができる総合学科を設置します。

③ 入学者選抜の工夫

学校の活力維持が特に求められる学校（専門教育を主とする学科、中高一貫教育校等）については、それぞれの特色に応じた入学者選抜を実施します。

また、学校の活性化を図るために、全国からの生徒募集が可能な学校の拡大を検討します。

〔専門教育を主とする学科等〕

対象学科	内容	実施年度
農業科 工業科 商業科 家庭科 看護科 福祉科 体育科 国際科 普通科（理数コース） 普通科（国際教養コース） 普通科（医療・教職コース）	選抜日程の前倒し（定員の一部分のみ） 一次選抜より早い日程で、特色枠による選抜の一部として、学校独自検査等による選抜を実施	R 9

※新設する情報科、理数科については、募集年度より実施

〔併設型中学校・高等学校〕

対象校	内容	実施年度
広島中・高 三次中・高	高等学校の選抜日程の前倒し 一次選抜より早い日程で、学力検査等による選抜を実施	R 8

※広島叡智学園中・高は高校段階においては、外国人生徒等のみ選抜を行うため対象外

なお、本計画で再編整備の対象としない学校においても、学校の特色化・魅力化に向け、教育環境や教育内容（産業教育や理数系教育等）の充実を図っていきます。

とりわけ、中山間地域の学校においては、生徒が減少する中であっても、活力ある教育活動が維持できるよう、学校の特色づくり等による活性化を図ります。

3 実施内容

【学科の枠を越え、総合的に学ぶことのできる複数の学科を有した学校の設置】

呉工業高等学校、呉商業高等学校の統合について

(1) 現状と今後の見込み

呉工業	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1学年当たりの学級数について、ピーク時（平成2年度）は8学級であったのに対し、令和7年度は基本とする学級数（4～8学級）を下回る3学級となっている。 ○ 令和15年度の入学者数は40人（1学級）程度となる見込み。 ○ 定時制の令和7年度の入学者は14名。 ○ 施設について、200㎡以上の建物13棟中、11棟が築40年を超過するなど、施設の老朽化が進行している。
呉商業	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1学年当たりの学級数について、ピーク時（平成2年度）は6学級であったのに対し、令和7年度は4学級となっている。 ○ 令和15年度の入学者は91人（2.3学級）程度となる見込み。 ○ 施設について、200㎡以上の建物12棟中、10棟が築40年を超過するなど、施設の老朽化が進行している。

校名	所在地	創立	課程	令和7年度 学科（入学定員）	学級数ピーク時（S45以降）				令和7年度				令和15年度（見込み）	
					生徒数（人）		学級数（学級）		生徒数（人）		学級数（学級）		生徒数（人）	学級数（学級）
					入学	入学	入学	入学	入学	入学	入学	入学	入学	学級数 換算
呉工業	呉市阿賀北2-10-1	昭和14年 (1936年)	全	機械・材料工学科（80人） 電気・電子機械科（40人）	953 (H元)	320 (H2)	24 (H元)	8 (H2)	179	85	11	3	40	1.0
		昭和25年 (1950年)	定	機械・電気科（1学級） キャリアデザイン科（1学級）					52	14	12	2		
呉商業	呉市広古新開4-1-1	昭和32年 (1957年)	全	情報ビジネス科 (160人)	811 (S61)	270 (H2)	18 (S61)	6 (H2)	402	125	12	4	91	2.3

(2) 再編（案）

校名	校地	課程	学科（入学定員）	再編後	
				1学年の 学級数 (学級)	入学定員 (人)
未定	呉商業高等学校 (呉市広古新開4-1-1)	全	機械・材料工学科（40人） 電気・電子機械科（40人） 情報ビジネス科（80人）	4	160
		定 (夜)	キャリアデザイン科 (1学級)	1	—

新しい学校の特色・魅力（方向性）

- 工業科、商業科の専門的な学びの継続に加え、DX対応やAI活用など先端技術に対応し、学科の枠を越えて協働的に探究活動に取り組むことで、地域に貢献できるものづくりとビジネスのスペシャリストの育成を目指す
- 工業科と商業科を併置し、地域産業界と連携して、実社会の課題を解決する力を総合的に身に付けていく学び
- DX対応やAI活用など先端技術に対応し、商品のアイデア創出から試作制作まで一体的に取り組めるスペース（ラボ）の整備
- 地域産業界等と連携するためのコーディネーター等、教職員配置の充実



【参考】関係校の主な施設の状況

校名	主な施設				校名	主な施設			
	建物名	延床面積	建築年度	内外部改修年度		建物名	延床面積	建築年度	内外部改修年度
呉工業	屋内運動場棟	2109㎡	S48		呉商業	管理・特別教室棟	1879㎡	S45	
	新総合実習室棟	2082㎡	S59			特別教室棟	1458㎡	S47	
	管理特別教室棟	1325㎡	S38	R5		普通教室棟	1008㎡	S57	
	普通教室棟	1322㎡	S35	H4		屋内運動場棟	953㎡	S43	
	管理特別教室棟	1044㎡	S43	R5		情報処理科（校舎別館）	930㎡	S46	
	総合実習室棟	825㎡	S44			普通教室棟	799㎡	S59	
	普通特別教室棟	813㎡	S46			普通教室棟	704㎡	S58	
	総合実習室棟	779㎡	S39			特別教室棟	660㎡	S50	

- 【学科の枠を越え、総合的に学ぶことのできる複数の学科を有した学校の設置】
- 【大学や企業等と連携し、実社会における課題について探究することで、創造性、協調性、社会参画意識を持った人材を育成する学科の設置】

海田高等学校、安芸南高等学校の統合について

(1) 現状と今後の見込み

海田	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1 学年当たりの学級数について、ピーク時（昭和59年度）は11学級であったのに対し、令和 7 年度は 7 学級となっている。 ○ 令和15年度の入学者は234人（5.8学級）程度となる見込み。 ○ 施設について、200㎡以上の建物11棟中、7 棟が築40年を超過するなど、施設の老朽化が進行している。
安芸南	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1 学年当たりの学級数について、ピーク時（昭和63年度）は 9 学級であったのに対し、令和 7 年度は 5 学級となっている。 ○ 令和15年度の入学者は155人（3.9学級）程度となる見込み。 ○ 施設について、200㎡以上の建物 5 棟中、2 棟が築40年を超過している。

校名	所在地	創立	課程	令和 7 年度 学科（入学定員）	学級数ピーク時（\$45以降）				令和 7 年度				令和15年度（見込み）	
					生徒数（人）		学級数（学級）		生徒数（人）		学級数（学級）		生徒数（人）	
						入学者		入学定員		入学者		入学定員	入学者	学級数 換算
海田	安芸郡海田町つくも町1-60	昭和17年 （1942年）	全	普通科（200人） 家政科（80人）	1422 (\$60)	513 (\$59)	31 (\$60)	11 (\$59)	828	254	22	7	234	5.8
安芸南	広島市安芸区矢野西2-15-1	昭和61年 （1986年）	全	普通科（200人）	1222 (H元)	423 (\$63)	26 (H元)	9 (\$63)	583	200	15	5	155	3.9

(2) 再編（案）

校名	校地	課程	学科（入学定員）	再編後	
				1 学年の 学級数 （学級）	入学定員 （人）
未定	海田高等学校 （安芸郡海田町つくも町1-60）	全	新しい普通科（仮称） （240人） 生活共創科（仮称） （80人）	8	320

新しい学校の特色・魅力（方向性）

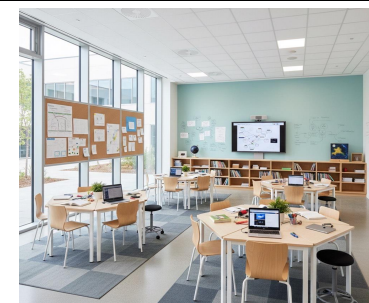
- 学科の枠を越えて協働的に探究活動に取り組むことを通して、多様な進路を実現することで、地域社会の課題解決に貢献できる人材の育成を目指す
- 新しい普通科と生活共創科を併置し、地域産業界等と連携して、実社会の課題を解決する力を総合的に身に付けていく学び
- 県下最大級の学校規模のメリットを最大限に活かした、活発な学校行事や部活動
- 情報機器やグループ学習用の設備を備えた開放的な学習空間（ラーニングcommons）と地域の多様な主体との積極的な交流のための地域交流スペースの整備
- 大学や地域産業界等との連携をコーディネートする教員等、教職員配置の充実

<新しい普通科>

- 大学や企業等と連携して、リアルを追究する質の高い探究的な学び
- 文理横断的な学びにより、実社会の抱える様々な課題解決に向けて探究するなどの新しいカリキュラム（大学教育への円滑な移行を図る高大接続カリキュラム、単位制によるオーダーメイドの時間割等）

<多様な進路選択への対応>

- 発展的な学びを求めている生徒や、学びの基礎をしっかりと身に付けたい生徒など、個々の生徒の進路選択に応じたきめ細かな学びの提供



【参考】関係校の主な施設の状況

校名	主な施設				校名	主な施設			
	建物名	延床面積	建築年度	内外部改修年度		建物名	延床面積	建築年度	内外部改修年度
海田	管理教室棟	2275㎡	S41	H11	安芸南	管理教室棟	4280㎡	S60	
	特別教室棟	1592㎡	S43	H5		管理教室棟	1811㎡	S61	R6
	屋内運動場棟	1527㎡	S59			特別教室棟	1485㎡	S61	
	武道場	1218㎡	H27			屋内運動場棟	1224㎡	S60	
	普通教室棟	1213㎡	H23			武道場	572㎡	S62	
	特別教室棟	1152㎡	S51						
	セミナーハウス	1048㎡	H4						
	特別教室棟	820㎡	S46	H5					

【大学や企業等と連携し、実社会における課題について探究することで、創造性、協調性、社会参画意識を持った人材を育成する学科の設置】

竹原高等学校、忠海高等学校の統合について

(1) 現状と今後の見込み

竹原	<div>○ 1学級当たりの学級数について、ピーク時（平成2年度）は8学級であったのに対し、令和7年度は基本とする学級数（4～8学級）を下回る2学級となっている。</div> <div>○ 令和15年度の入学者は34人（0.9学級）程度となる見込み。</div> <div>○ 施設について、200㎡以上の建物11棟中、10棟が築40年を超過するなど、施設の老朽化が進行している。</div>
忠海	<div>○ 1学年当たりの学級数について、ピーク時（昭和51年度）は6学級であったのに対し、令和7年度は基本とする学級数（4～8学級）を下回る2学級となっている。</div> <div>○ 令和15年度の入学者は31人（0.8学級）程度となる見込み。</div> <div>○ 施設について、200㎡以上の建物9棟中、8棟が築40年を超過するなど、施設の老朽化が進行している。</div>

校名	所在地	創立	課程	令和7年度 学科（入学定員）	学級数ピーク時（S45以降）				令和7年度				令和15年度（見込み）	
					生徒数（人）		学級数（学級）		生徒数（人）		学級数（学級）		生徒数（人）	
						入学者		入学定員		入学者		入学定員	入学者	学級数 換算
竹原	竹原市竹原町3444-1	明治39年 （1906年）	全	普通科（40人） 商業科（40人）	1074 （H2）	360 （H2）	24 （H2）	8 （H2）	140	47	6	2	34	0.9
忠海	竹原市忠海床浦4-4-1	明治30年 （1897年）	全	普通科（80人）	815 （S53）	276 （S51）	18 （S53）	6 （S51）	147	61	6	2	31	0.8

(2) 再編（案）

校名	校地	課程	学科（入学定員）	再編後	
				1学年の 学級数 （学級）	入学定員 （人）
未定	竹原高等学校 （竹原市竹原町3444-1）	全	新しい普通科（仮称） （120人）	3	120

新しい学校の特色・魅力（方向性）

- 竹原市の人材育成の拠点として、多様な進路を実現することで、地域の持続的な発展を支える人材の育成を目指す
- 情報機器やグループ学習用の設備を備えた開放的な学習空間（ラーニングコモンズ）を整備
- 大学との連携をコーディネートする教員等、教職員配置の充実

<新しい普通科>

- 大学や企業等と連携して、リアルを追究する質の高い探究的な学び
- 文理横断的な学びにより、実社会の抱える様々な課題解決に向けて探究するなどの新しいカリキュラム（大学教育への円滑な移行を図る高大接続カリキュラム、単位制によるオーダーメイドの時間割等）

<多様な進路選択への対応>

- 発展的な学びを求めている生徒や、学びの基礎をしっかりと身に付けたい生徒など、個々の生徒の進路選択に応じたきめ細かな学びの提供



【参考】関係校の主な施設の状況

校名	主な施設				校名	主な施設			
	建物名	延床面積	建築年度	内外部改修年度		建物名	延床面積	建築年度	内外部改修年度
竹原	普通教室棟	1728㎡	S45	H13	忠海	特別教室棟	1746㎡	S45	H17
	特別教室棟	1710㎡	S54			管理教室棟	1595㎡	S46	H23
	屋内運動場棟（第2）	1506㎡	H3			体育館兼講堂棟	963㎡	H9	
	特別教室棟	1366㎡	S42	H7		管理棟	935㎡	S47	H23
	屋内運動場棟（第1）	860㎡	S36	H25		特別教室棟	738㎡	S49	H17
	管理教室棟	816㎡	S43	H7		理科教室棟	727㎡	S35	H6
	特別教室棟	738㎡	S51			理科教室棟	546㎡	S40	H6
	普通教室棟	648㎡	S46	H13		武道場棟	450㎡	S44	

- 【生徒一人一人の実態や学習ニーズに応じた教育活動を実施する学校の整備】
- 【大学や企業等と連携し、実社会における課題について探究することで、創造性、協調性、社会参画意識を持った人材を育成する学科の設置】

三原高等学校、三原東高等学校の統合について

(1) 現状と今後の見込み

三原	<div>○ 1 学年当たりの学級数について、ピーク時（平成 2 年度）は 8 学級であったのに対し、令和 7 年度は 4 学級となっている。</div> <div>○ 令和15年度の入学者は99人（2.5学級）程度となる見込み。</div> <div>○ 定時制の令和 7 年度の入学者は44名。</div> <div>○ 施設について、200㎡以上の建物 9 棟中、8 棟が築40年を超過するなど、施設の老朽化が進行している。</div>
三原東	<div>○ 1 学年当たりの学級数について、ピーク時（昭和61年度）は 8 学級であったのに対し、令和 7 年度は基本とする学級数（4～8 学級）を下回る 2 学級となっている。</div> <div>○ 令和15年度の入学者は36人（0.9学級）程度となる見込み。</div> <div>○ 施設について、200㎡以上の建物11棟中、8 棟が築40年を超過するなど、施設の老朽化が進行している。</div>

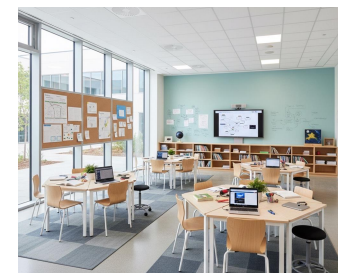
校名	所在地	創立	課程	令和 7 年度 学科（入学定員）	学級数ピーク時（S45以降）				令和 7 年度				令和15年度（見込み）	
					生徒数（人）		学級数（学級）		生徒数（人）		学級数（学級）		生徒数（人）	学級数（学級）
					入学	入学	入学	入学	入学	入学	入学	入学	入学	学級数 換算
三原	三原市宮沖4-11-1	大正 9 年 (1920年)	全	普通科（160人）	1128 (H2)	376 (H2)	24 (H2)	8 (H2)	464	160	12	4	99	2.5
		昭和24年 (1949年)	定	普通科・午前（1学級）						29	4	1		
				普通科・夜間（1学級）						15	4	1		
三原東	三原市中之町2-7-1	昭和32年 (1957年)	全	普通科（80人）	1077 (H2)	376 (S61)	23 (H2)	8 (S61)	137	35	6	2	36	0.9

(2) 再編（案）

校名	校地	課程	学科（入学定員）	再編後	
				1 学年の 学級数 (学級)	入学定員 (人)
未定	三原高等学校 (三原市宮沖4-11-1)	全	新しい普通科（仮称） (160人)	4	160
		定 (昼)	普通科 (1 学級)	1	—
		定 (夜)	普通科 (1 学級)	1	—

新しい学校の特色・魅力（方向性）

- 全日制課程と定時制課程（昼間・夜間）を併置し、様々な分野に興味・関心がある生徒、多様な文化的背景をもつ生徒、学びづらさを感じている生徒などが、個々のライフスタイルや目標に合わせて学び、ソーシャルスキル等を身に付けたりすることで、多様な進路を実現し、地域の持続的発展を支える人材育成を目指す学校
- 情報機器やグループ学習用の設備を備えた開放的な学習空間（ラーニングコモンズ）や個々の生徒の状況に合わせて、きめ細かい支援を行うサポートルームを整備
- 大学との連携をコーディネートする教員や教育相談コーディネーター等、教職員配置の充実



<新しい普通科>

- 大学や企業等と連携して、リアルを追究する質の高い探究的な学び
- 文理横断的な学びにより、実社会の抱える様々な課題解決に向けて探究するなどの新しいカリキュラム（大学教育への円滑な移行を図る高大接続カリキュラム、単位制によるオーダーメイドの時間割等）



<多様な進路選択への対応>

- 発展的な学びを求めている生徒や、学びの基礎をしっかりとし身に付けたい生徒など、個々の生徒の進路選択に応じたきめ細かな学びの提供

【参考】関係校の主な施設の状況

校名	主な施設				校名	主な施設			
	建物名	延床面積	建築年度	内外部改修年度		建物名	延床面積	建築年度	内外部改修年度
三原	普通・特別教室棟	1793㎡	S49	H20	三原東	管理教室棟	1593㎡	S52	H29
	屋内運動場棟	1540㎡	S60			管理教室棟	1504㎡	S52	H29
	管理教室棟	1496㎡	S43	H22		第2屋内運動場棟	1236㎡	S61	
	特別教室棟	1456㎡	S46	H13		特別教室棟	965㎡	S56	
	普通教室棟	980㎡	S47	H20		管理教室棟	900㎡	S54	H29
	特別教室棟	965㎡	S45	H13		特別教室棟	777㎡	S58	
	特別教室棟	801㎡	S43	H13		特別教室棟	738㎡	S59	
	武道場棟	690㎡	H27			セミナーハウス	661㎡	H4	

賀茂高等学校、河内高等学校の統合について

(1) 現状と今後の見込み

賀茂	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1学年当たりの学級数について、ピーク時（平成2年度）は11学級であったのに対し、令和7年度は6学級となっている。 ○ 令和15年度の入学者は234人（5.8学級）程度となる見込み。 ○ 定時制の令和7年度の入学者は25名。 ○ 施設について、200㎡以上の建物16棟中、12棟が築40年を超過するなど、施設の老朽化が進行している。
河内	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1学年当たりの学級数について、ピーク時（平成元年度）は8学級であったのに対し、令和7年度は基本とする学級数（4～8学級）を下回る2学級となっている。 ○ 令和15年度の入学者は49人（1.2学級）程度となる見込み。 ○ 施設について、200㎡以上の建物6棟中、6棟が築40年を超過するなど、全ての施設で老朽化が進行している。

校名	所在地	創立	課程	令和7年度 学科（入学定員）	学級数ピーク時（S45以降）				令和7年度				令和15年度（見込み）	
					生徒数（人）		学級数（学級）		生徒数（人）		学級数（学級）		生徒数（人）	
					入学	入学	入学	入学	入学	入学	入学	入学	入学	学級数 換算
賀茂	東広島市西条西本町16-22	明治39年 (1906年)	全	普通科（240人）	1491 (H2)	495 (H2)	33 (H2)	11 (H2)	736	240	19	6	234	5.8
		昭和43年 (1968年)	定	普通科（1学級）					58	25	4	1		
河内	東広島市河内町下河内10194-2	明治42年 (1909年)	全	普通科（80人）	921 (H元)	332 (H元)	23 (H元)	8 (H元)	162	40	6	2	49	1.2

(2) 再編（案）

校名	校地	課程	学科（入学定員）	再編後	
				1学年の 学級数 (学級)	入学定員 (人)
未定	賀茂高等学校 (東広島市西条西本町16-22)	全	新しい普通科（仮称） (240人)	6	240
		定 (昼)	普通科 (1学級)	1	—
		定 (夜)	普通科 (1学級)	1	—

新しい学校の特色・魅力（方向性）

- 全日制課程と夜間定時制課程に加え、昼間定時制課程を併置し、様々な分野に興味・関心がある生徒、多様な文化的背景をもつ生徒、学びづらさを感じている生徒などが、地域との関わりの中で、個々のライフスタイルや目標に合わせて学び、ソーシャルスキル等を身に付けたりすることで、多様な進路を実現し、地域の持続的発展を支える人材育成を目指す学校
- 情報機器やグループ学習用の設備を備えた開放的な学習空間（ラーニングコモンズ）や個々の生徒の状況に合わせて、きめ細かい支援を行うサポートルームを整備
- 大学との連携をコーディネートする教員や教育相談コーディネーター等、教職員配置の充実



<新しい普通科>

- 大学や企業等と連携して、リアルを追究する質の高い探究的な学び
- 文理横断的な学びにより、実社会の抱える様々な課題解決に向けて探究するなどの新しいカリキュラム（大学教育への円滑な移行を図る高大接続カリキュラム、単位制によるオーダーメイドの時間割等）



<多様な進路選択への対応>

- 発展的な学びを求めている生徒や、学びの基礎をしっかりと身に付けたい生徒など、個々の生徒の進路選択に応じたきめ細かな学びの提供

【参考】関係校の主な施設の状況

校名	主な施設				校名	主な施設			
	建物名	延床面積	建築年度	内外部改修年度		建物名	延床面積	建築年度	内外部改修年度
賀茂	屋内運動場棟（新体育館）	3072㎡	H14		河内	管理普通教室棟	3761㎡	S53	
	管理教室棟	2010㎡	S43	H11		屋内運動場棟	2046㎡	S53	
	屋内運動場棟（旧体育館）	1119㎡	S46			管理普通教室棟	1818㎡	S52	
	理科教室棟	936㎡	S56	H22		特別教室棟	968㎡	S54	
	管理教室棟	896㎡	S42	H11		特別教室棟	810㎡	S55	
	特別教室棟	880㎡	S48	R2		普通教室棟	540㎡	S57	
	普通教室棟	871㎡	S52	R2					
	特別教室棟	819㎡	S58						

高陽高等学校、安西高等学校、高陽東高等学校の統合について

(1) 現状と今後の見込み

高陽	<div>○ 1学年当たりの学級数について、ピーク時（平成元年度）は11学級であったのに対し、令和7年度は6学級となっている。</div> <div>○ 令和15年度の入学者は170人（4.3学級）程度となる見込み。</div> <div>○ 施設について、200㎡以上の建物8棟中、7棟が築40年を超過するなど、施設の老朽化が進行している。</div>
安西	<div>○ 1学年当たりの学級数について、ピーク時（平成元年度）は11学級であったのに対し、令和7年度は基本とする学級数（4～8学級）を下回る2学級となっている。</div> <div>○ 令和15年度の入学者は53人（1.3学級）程度となる見込み。</div> <div>○ 施設について、200㎡以上の建物9棟中、8棟が築40年を超過するなど、施設の老朽化が進行している。</div>
高陽東	<div>○ 1学年当たりの学級数について、ピーク時（昭和62年度）は10学級であったのに対し、令和7年度は6学級となっている。</div> <div>○ 令和15年度の入学者は158人（3.9学級）程度となる見込み。</div> <div>○ 施設について、200㎡以上の建物13棟中、11棟が築40年を超過するなど、施設の老朽化が進行している。</div>

校名	所在地	創立	課程	令和7年度 学科（入学定員）	学級数ピーク時（S45以降）				令和7年度				令和15年度（見込み）	
					生徒数（人）		学級数（学級）		生徒数（人）		学級数（学級）		生徒数（人）	
						入学者		入学定員		入学者		入学定員	入学者	学級数 換算
高陽	広島市安佐北区真亀3-22-1	昭和52年 （1977年）	全	普通科（240人）	1539 （H2）	515 （H元）	33 （H2）	11 （H元）	712	240	18	6	170	4.3
安西	広島市安佐南区高取南2-52-1	昭和54年 （1979年）	全	普通科（80人）	1541 （H元）	517 （H元）	33 （H元）	11 （H元）	149	52	6	2	53	1.3
高陽東	広島市安佐北区落合南8-12-1	昭和58年 （1983年）	全	総合学科（240人）	1344 （H元）	466 （S62）	30 （H元）	10 （S62）	714	240	18	6	158	3.9

(2) 再編（案）

校名	校地	課程	学科（入学定員）	再編後	
				1学年の 学級数 （学級）	入学定員 （人）
未定	高陽高等学校 （広島市安佐北区真亀3-22-1）	全	総合学科 （280人）	7	280

新しい学校の特色・魅力（方向性）

- 様々な分野に興味・関心がある生徒、多様な文化的背景をもつ生徒、学びづらさを感じている生徒など、多様な生徒がニーズに応じて、幅広い科目群（スポーツ、アート・デザイン、テクノロジー、DX等）の中から科目が選択でき、希望する進路の実現が可能な総合学科
 - 個々の生徒の状況に合わせて、きめ細かい支援を行うサポートルームの整備
 - 教育相談コーディネーター等、教職員配置の充実
- <多様な進路選択への対応>
- 発展的な学びを求めている生徒や、学びの基礎をしっかりと身に付けたい生徒など、個々の生徒の進路選択に応じたきめ細かな学びの提供



【参考】関係校の主な施設の状況

校名	主な施設				校名	主な施設			
	建物名	延床面積	建築年度	内外部改修年度		建物名	延床面積	建築年度	内外部改修年度
高陽	普通教室棟	2400㎡	S52	H20	安西	特別教室棟	2943㎡	S53	
	特別教室棟・普通教室棟	1976㎡	S51	H19		管理教室棟	2426㎡	S54	
	屋内運動場棟	1673㎡	S53			講堂（体育館）	1524㎡	S55	
	特別教室棟	1420㎡	S52	H19		普通教室棟	1109㎡	S55	
	管理棟	1414㎡	S54			特別教室棟	944㎡	S54	
	武道場棟	1071㎡	S57			研修室（セミナーハウス）	662㎡	H5	
	教室棟	648㎡	S56			武道場棟	573㎡	S57	
	同窓会館	233㎡	H9			普通教室棟	460㎡	S56	
高陽東	屋内運動場棟	2795㎡	S57						
	普通教室棟	1492㎡	S57	R5					
	普通教室棟	1140㎡	S58	R5					
	特別教室棟	1115㎡	S57						
	特別教室棟	821㎡	S58						
	管理棟	785㎡	S57						
	実習室棟	675㎡	H7						
	特別教室棟	648㎡	S58						

松永高等学校、沼南高等学校、福山誠之館高等学校定時制、福山葦陽高等学校定時制、東高等学校の統合について

(1) 現状と今後の見込み

松永	<ul style="list-style-type: none">○ 1学年当たりの学級数について、ピーク時（平成元年度）は11学級であったのに対し、令和7年度は4学級となっている。○ 令和15年度の入学者は115人（2.9学級）程度となる見込み。○ 定時制の令和7年度の入学者は5名。○ 施設について、200㎡以上の建物6棟中、5棟が築40年を超過するなど、施設の老朽化が進行している。
沼南	<ul style="list-style-type: none">○ 1学年当たりの学級数について、ピーク時（昭和51年度）は6学級であったのに対し、令和7年度は基本とする学級数（4～8学級）を下回る2学級となっている。○ 令和15年度の入学者は29人（0.7学級）程度となる見込み。○ 施設について、200㎡以上の建物12棟中、11棟が築40年を超過するなど、施設の老朽化が進行している。
福山誠之館（定）	<ul style="list-style-type: none">○ 令和7年度の入学者は8名。
福山葦陽（定）	<ul style="list-style-type: none">○ 令和7年度の入学者は21名。
東	<ul style="list-style-type: none">○ 令和7年度の入学者は159名。

校名	所在地	創立	課程	令和7年度 学科（入学定員）	学級数ピーク時（S45以降）				令和7年度				令和15年度（見込み）	
					生徒数（人）		学級数（学級）		生徒数（人）		学級数（学級）		生徒数（人）	学級数（学級）
						入学者		入学定員		入学者		入学定員	入学者	学級数換算
松永	福山市神村町10113	大正10年 （1921年）	全	総合学科（160人）	1506 （S63）	517 （H元）	32 （S63）	11 （H元）	302	103	10	4	115	2.9
		昭和23年 （1948年）	定	普通科（1学級）					27	5	4	1		
沼南	福山市沼隈町下山南4	大正10年 （1921年）	全	家政科（40人） 園芸デザイン科（40人）	776 （S50）	260 （S51）	18 （S50）	6 （S51）	87	28	6	2	29	0.7
福山誠之館	福山市木之庄町6-11-1	昭和23年 （1948年）	定	普通科（1学級）					25	8	3	1		
福山葦陽	福山市久松台3-1-1	昭和43年 （1968年）	定	普通科（1学級）					62	21	4	1		
東	福山市木之庄町6-11-2	平成3年 （1992年）	通	普通科（300人）					611	159				

(2) 再編（案）

校名	校地	課程		学科（入学定員）	再編後	
					1学年の 学級数 （学級）	入学定員 （人）
未定	松永高等学校 （福山市神村町10113）	フレ キシ ブル	全	総合学科 （160人）	4	160
			定	総合学科 （80人）	2	—
			通	総合学科 （300人）	—	300

新しい学校の特色・魅力（方向性）

- 松永高等学校、沼南高等学校、福山誠之館高等学校（定）、福山葦陽高等学校（定）、東高等学校の教育内容を引き継ぎ、全日制課程、定時制課程、通信制課程を併置、連携することで、生徒がライフスタイルや興味・関心、進路希望に応じて、学ぶ方法、時間、場所など、自分に適した学びのスタイルを柔軟に調整できるフレキシブル課程
- 地元産業界と連携した農場での実習や地元企業での職場実習など、多様な教科・科目から生徒が主体的に選択できる実践的・体験的な学び
- 生徒の多様な学び方に柔軟に対応できる新校舎を建設
- スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等、教職員配置の充実



【参考】関係校の主な施設の状況

校名	主な施設				校名	主な施設			
	建物名	延床面積	建築年度	内外部改修年度		建物名	延床面積	建築年度	内外部改修年度
松永	特別教室棟	3793㎡	H11		東	管理教室棟	2418㎡	S63	
	普通・特別教室棟	3430㎡	S59			屋内運動場棟	1019㎡	H元	
	普通教室棟	2518㎡	S60			宿泊棟	385㎡	S63	
	屋内運動場棟	1529㎡	S54						
	特別教室棟	1312㎡	S46	H16					
	管理教室棟	1048㎡	S60						
沼南	普通教室棟	1512㎡	S45	H16					
	普通教室棟	1180㎡	S43						
	屋内運動場棟	1096㎡	S46						
	管理教室棟	1006㎡	S56						
	実習室棟	936㎡	S51						
	管理教室棟	884㎡	S52						
	管理教室棟	846㎡	S55						
	普通教室棟	655㎡	S39	H14					

先端生産創造科（仮称）への学科改編

（１）対象校

庄原実業高等学校

全：生物生産学科①/
環境工学科①/
食品工学科①/
生活科学科①

全：先端生産創造科①/
環境工学科①/
食品工学科①/
生活科学科①

（２）改編内容

新しい学科の特色・魅力（方向性）

- これまでの県立広島大学や農業技術大学校等と連携した取組を生かし、農業の成長産業化を牽引するプロフェッショナル人材の育成を目指す
- 高等教育機関や産業界と連携して、ICT、AI等の先端技術により、次世代の農業の形を実現するスマート農業など、実践的な知識・技術を身に付けていく専門的な学び
- 自動走行トラクターやドローンなど、農業DXを取り入れた実習環境の整備
- 地域産業界等や研究機関等と連携するためのコーディネーター等、教職員配置の充実



ロボット工学科（仮称）への学科改編

（１）対象校

広島工業高等学校、福山工業高等学校

【広島工業】

全：機械科②/電気科②/
建築科②/土木科①/化学工学科①

【福山工業】

全：機械科②/電気科①/電子機械科②/
建築科①/
工業化学・染織システム科①
定：機械科①/電気科①

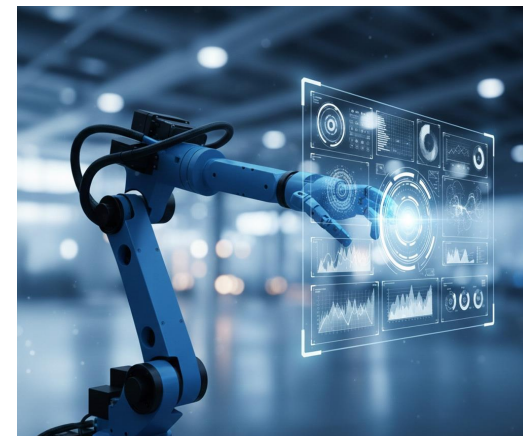
全：機械科①/電気科①/
ロボット工学科（仮称）①/
建築科①/土木科①/化学工学科①

全：機械科①/電気科①/
ロボット工学科（仮称）①/
建築科①/
工業化学・染織システム科①
定：機械科①/電気科①

（２）改編内容

新しい学科の特色・魅力（方向性）

- 自動化機器の制御に関わる知識・技術を身に付けた産業イノベーション人材の育成を目指す
- ロボットやモビリティに関わる基礎技術やAI等の先端技術に関わる専門的な学び
- 産業の最前線で通用する知識・技術の習得に向けた実習環境の整備
- 地域産業界等と連携するためのコーディネーター等、教職員配置の充実



デザイン工学科（仮称）への学科改編

（１）対象校

宮島工業高等学校

全：機械科②/
電気・情報技術科②/
建築・インテリア科②/
素材システム科①
定：機械科①

全：機械科①/
電気科①/情報技術科①/
デザイン工学科（仮称）①/
素材システム科①
定：機械科①

（２）改編内容

新しい学科の特色・魅力（方向性）

- 建築・インテリア・デザインの知識・技術を横断的に学ぶことで、製品の新たな開発等を行う産業イノベーション人材の育成を目指す
- 建築・インテリア等の設計に関わる伝統技術や3Dデジタルデザイン等の先端技術を融合させて、新たな価値を創出していくための専門的な学び
- 産業の最前線で通用する知識・技術の習得に向けた実習環境の整備
- 地域産業界等と連携するためのコーディネーター等、教職員配置の充実



生活共創科（仮称）への学科改編

（１）対象校

海田高等学校

【海田】

全：普通科⑤/家政科②

【安芸南】

全：普通科⑤

全：新しい普通科（仮称）⑥/
生活共創科（仮称）②

（２）改編内容

新しい学科の特色・魅力（方向性）

- 地球環境や持続可能な社会との関係の中で、生活者の視点から、ライフスタイルにイノベーションをもたらし、ウェルビーイングを実現する人材の育成を目指す
- 変化し続けるライフスタイルに着目し、衣・食・住・保育・福祉・消費生活・環境の領域を横断して、生活の質の向上に寄与する力を身に付けていく専門的な学び
- スマートデバイス等を活用したイノベーティブな学びを可能とする高度なデジタル環境の整備
- 地域産業界等と連携するためのコーディネーター等、教職員配置の充実



情報科学科（仮称）への学科改編

（１）対象校

総合技術高等学校

全：電子機械科①/情報技術科①/
環境設備科①/
現代ビジネス科①/
人間福祉科①/食デザイン科①

全：電子機械科①/情報科学科（仮称）①/
環境設備科①/
現代ビジネス科①/
人間福祉科①/食デザイン科①

（２）改編内容

新しい学科の特色・魅力（方向性）

- 情報技術を使うだけでなく、その背後にある原理や情報モラルを理解し、AIやビッグデータを使いこなすデジタル人材の育成を目指す
- AI等のデジタルの成長分野で求められる情報技術に関する専門的な学び
- 産業の最前線で通用する知識・技能の習得に向けたデジタル環境の整備
- 地域産業界等と連携するためのコーディネーター等、教職員配置の充実



サイエンス科（仮称）への学科改編

（１）対象校

広島国泰寺高等学校

全：普通科⑥/
普通科（理数コース）②

全：普通科⑥/
サイエンス科（仮称）②

（２）改編内容

新しい学科の特色・魅力（方向性）

- これまでのスーパーサイエンスハイスクールの取組を生かし、理数教育を先導する拠点として、多様な人々と協働し、異分野の知見を融合して、新たな価値を創造していく科学技術人材の育成を目指す
- 大学・産業界等と連携した共同研究を通して、最先端科学技術を用いた観察・実験や文理横断的な領域も含めた科学的な課題研究を行い、幅広い教養と科学的思考力を身に付けていく専門的な学び
- 大学や企業と連携した高度な実験・観察ができる科学機器を設置した研究施設（ラボ）の整備（他校の生徒や小・中学生へも開かれた理数教育に関わる探究活動の拠点としても活用）
- 大学や研究機関等との連携をコーディネートする教員等、教職員配置の充実



スポーツ科学科（仮称）への学科改編

（１）対象校

広島皆実高等学校、神辺旭高等学校

【広島皆実】

全：普通科⑥/
衛生看護科①/
体育科①

全：普通科⑥/
衛生看護科①/
スポーツ科学科（仮称）①

【神辺旭】

全：普通科⑤/
体育科①

全：普通科③/
スポーツ科学科（仮称）①

（２）改編内容

新しい学科の特色・魅力（方向性）

- トップアスリートの育成とともに、スポーツアナリストなど、選手を支える専門家や指導者の育成も目指す
- 健康や体力向上、競技力向上に向けた科学的分析及び活用に関する専門的な学び
- 高度なトレーニング施設・設備やスポーツデータ分析に必要なデジタル機器の整備
- 大学との連携をコーディネートする教員等、教職員配置の充実



総合学科への学科改編

（１）対象校

吉田高等学校

全：探究科③/
アグリビジネス科①

全：総合学科④

（２）改編内容

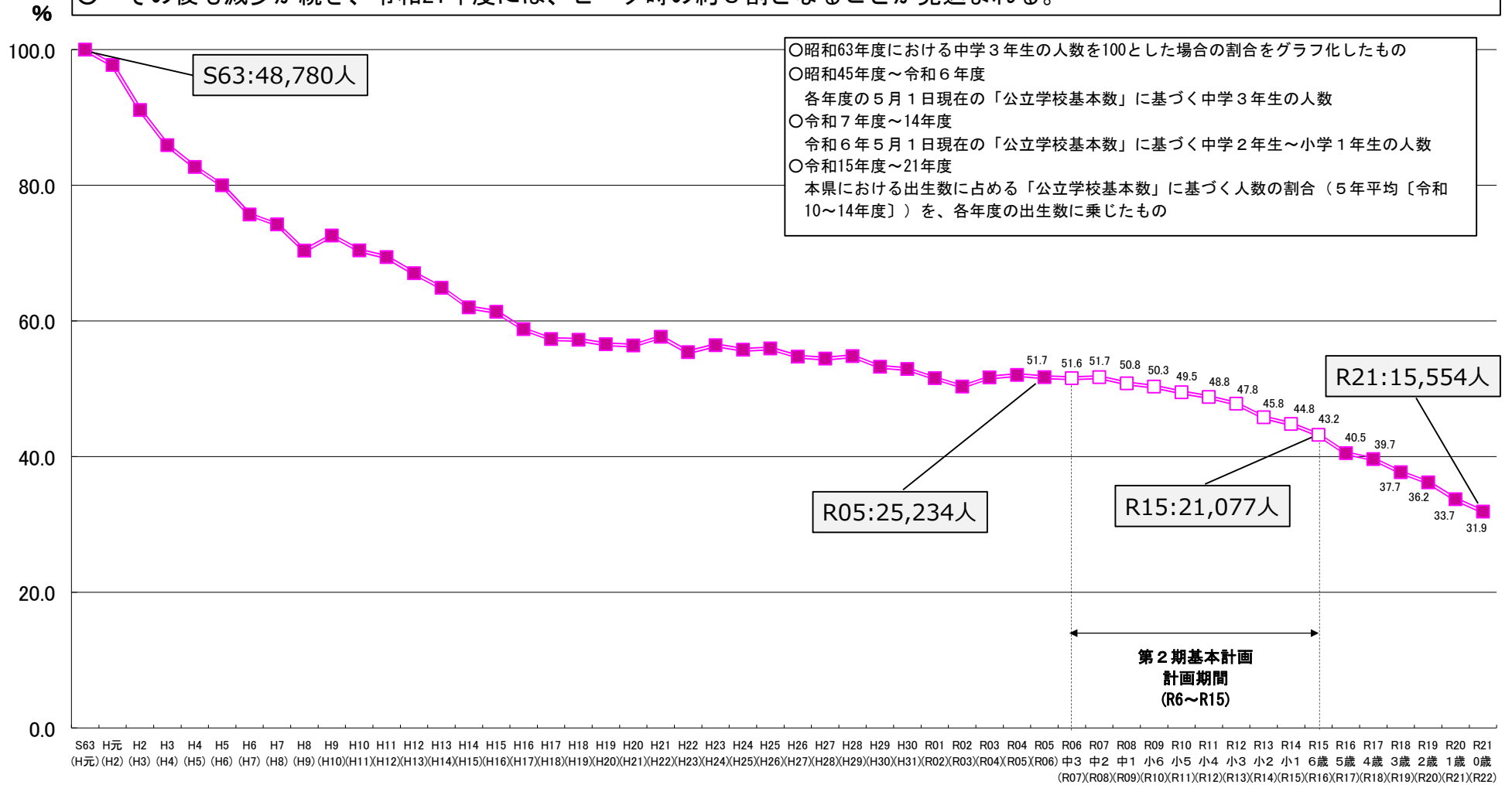
新しい学科の特色・魅力（方向性）

- 多様なキャリア志向の生徒が、幅広い科目群（農業、スポーツ、伝統芸能等）の中から科目が選択でき、多様な価値観に触れながら自身のキャリアについて考えることができる総合学科
- 地域産業界や大学等と連携し、スマート農業などを通して、最先端技術に触れながら、食や自然環境等の課題について探究する実践的・体験的な学び
- 地域の多様な主体との積極的な交流のための地域交流スペースの整備
- 地域産業界等と連携するためのコーディネーター等、教職員配置の充実



広島県における中学校3年生在籍者数の推移(昭和63年度=100)

- 中学校3年生在籍者数は、昭和63年度をピークに減少し続けており、令和5年度にはピーク時の約半数となっている。
- 本計画の最終年度の令和15年度には、ピーク時の約4割となることが見込まれる。
- その後も減少が続き、令和21年度には、ピーク時の約3割となることが見込まれる。



※ ()内は高校入学年度を示す。広島市立広島中等教育学校、広島叡智学園中学校の在籍生徒数は除く。

※ 国公私合計

「今後の県立高等学校の在り方に係る実施計画」有識者会議（第3回） の概要について

1 要旨・目的

令和7年11月21日（金）に開催した「今後の県立高等学校の在り方に係る実施計画」の策定に向けた第3回有識者会議の概要について報告する。

2 現状・背景

令和6年3月に策定した「今後の県立高等学校の在り方に係る基本計画（第2期）」に掲げる県立高等学校の目指す姿の実現に向けた実施計画を策定するに当たり、学識経験者等による有識者会議を設置した。

3 概要

(1) 第3回有識者会議について

日 時：令和7年11月21日（金）14時～16時

場 所：広島県庁本館R階 R4会議室（オンラインによるハイブリッド開催）

参 加 者：教育やまちづくり、産業等の分野に関する有識者7名

主な議題：新たに整備しようとする学校・学科の方向性（案）について

(2) 第3回有識者会議における主な意見

- 実施計画の策定に向けた基本的な考え方については、概ねこの方向性で良いのではないかな。
- 子供の数がここまで減っている現状や、それにより生じている様々な教育環境の課題について、県民に対してより積極的な情報発信が必要ではないかな。
- 自分になりたいものになるために、どういった高校選択をすれば良いか、子供たちにわかりやすく示す必要があるのではないかな。また、小・中学校からのキャリア教育の積み重ねや、働くことのイメージの明確化が必要ではないかな。
- 新しく整備する学校等の名称については、子供や大人、地域の企業など、県民から幅広く意見をいただけるような機会の設定が必要ではないかな。
- 統合する学校においては、大学等との連携に特化していく方向性や、高等専門学校として設置することなども考えられるのではないかな。また、機能強化のための施設改修など、統合することのメリットをもっと打ち出す必要があるのではないかな。
- 統合する学校以外の学校においても、特色化や魅力化を図っていくことがわかるよう、実施計画の書き方を工夫する必要があるのではないかな。また、中山間地域の学校の魅力化・特色化についても記載する必要があるのではないかな。

- 専門学科の整備に当たっては、専門性のベースとして、基礎的な見方やリテラシーをしっかりと身に付けられるカリキュラムが必要ではないか。
- 今の学校で学びづらさを感じている生徒や、新たな学びのために積極的に環境を変えたい生徒などに対して、学校や学科間の移動や交流を選択できる越境学習のような仕組みを整えていくべきではないか。

「今後の県立高等学校の在り方に係る実施計画」の策定に向けた 有識者会議（第3回） 次第

令和7年11月21日（金）14:00～16:00

広島県庁 本館R階 R4会議室

1 開会

2 説明

実施計画の基本的な考え方（案）について

3 意見交換

テーマ：新たに整備しようとする学校・学科の方向性（案）について

4 閉会

(1) 閉会挨拶

(2) 事務連絡

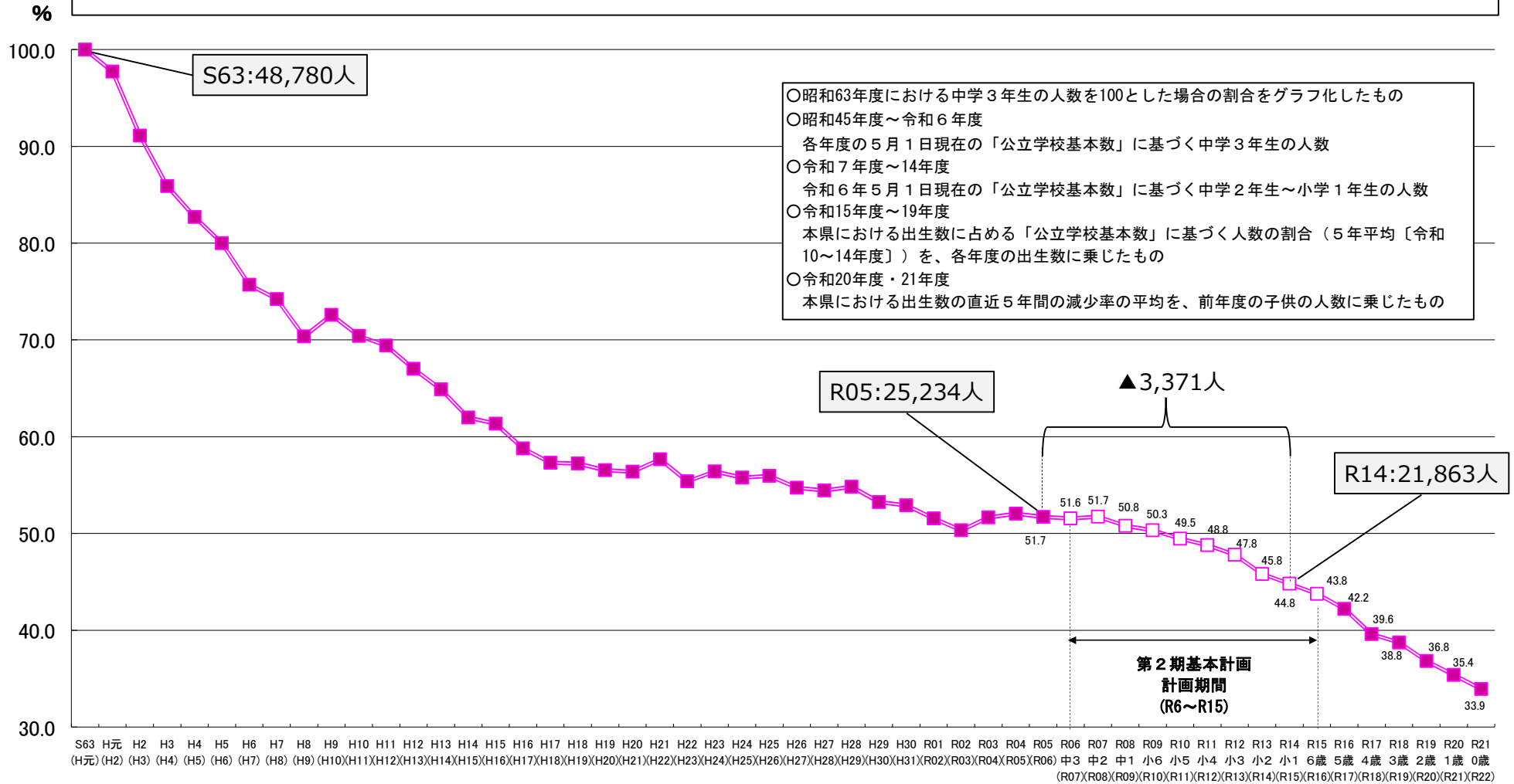
**「今後の県立高等学校の在り方に係る実施計画」の策定に向けた
有識者会議（第3回）**

資料目次

資料1	広島県における中学校3年生在籍者数の推移	1
資料2	今後の公立高等学校（全日制）進学者数及び学級数等見込	2
資料3	再編整備の考え方（案）	4
補足資料	「新しい普通科」の設置	6

広島県における中学校3年生在籍者数の推移(昭和63年度=100)

- 中学校3年生在籍者数は、昭和63年度をピークに減少し続けており、令和5年度にはピーク時の約半数となっている。
 ○ 今後も減少が続く、令和16年度にはピーク時の約4割程度となることが見込まれる。



※ ()内は高校入学年度を示す。広島市立広島中等教育学校、広島叡智学園中学校の在籍生徒数は除く。

※ 国公私合計

今後の公立高等学校(全日制)進学者数及び学級数等見込(旧6学区別)

◇公立中卒業者数及び公立高(全日制)進学者数見込

- 令和15年度の公立高等学校(全日制)進学者数見込
- ・R6の公私割合のまま推移した場合: 令和6年度から15.3%(2,052人)の減少の見込
 - ・R6の私立高への進学者数が変わらず推移した場合: 令和6年度から20.6%(2,768人)の減少の見込
- ※芸北、尾三、備北地域は県平均と比較して減少率が高くなる見込

地域	区分	令和6年度	試算1 令和15年度	試算2 令和15年度
芸北 (安芸高田市・安芸太田町・北広島町)	公立中卒業者数	391人	281人	281人
	[増減(R6比)]	—	▲ 110	▲ 110
	[増減率(R6比)]	—	▲28.1%	▲28.1%
	公立高(全日制)進学者数	207人	157人	145人
	[増減(R6比)]	—	▲ 50	▲ 62
	[増減率(R6比)]	—	▲24.2%	▲30.0%
広島 (広島市・廿日市市・大竹市・府中町・海田町・熊野町・坂町)	公立中卒業者数	11,505人	10,254人	10,254人
	[増減(R6比)]	—	▲ 1,251	▲ 1,251
	[増減率(R6比)]	—	▲10.9%	▲10.9%
	公立高(全日制)進学者数	6,775人	6,033人	5,641人
	[増減(R6比)]	—	▲ 742	▲ 1,134
	[増減率(R6比)]	—	▲11.0%	▲16.7%
呉・賀茂 (呉市・東広島市・江田島市)	公立中卒業者数	3,473人	2,891人	2,891人
	[増減(R6比)]	—	▲ 582	▲ 582
	[増減率(R6比)]	—	▲16.8%	▲16.8%
	公立高(全日制)進学者数	1,842人	1,509人	1,384人
	[増減(R6比)]	—	▲ 333	▲ 458
	[増減率(R6比)]	—	▲18.1%	▲24.9%
尾三 (竹原市・三原市・尾道市・世羅町・大崎上島町)	公立中卒業者数	2,049人	1,432人	1,432人
	[増減(R6比)]	—	▲ 617	▲ 617
	[増減率(R6比)]	—	▲30.1%	▲30.1%
	公立高(全日制)進学者数	1,311人	953人	860人
	[増減(R6比)]	—	▲ 358	▲ 451
	[増減率(R6比)]	—	▲27.3%	▲34.4%
福山 (福山市・府中市・神石高原町)	公立中卒業者数	4,131	3,514	3,514
	[増減(R6比)]	—	▲ 617	▲ 617
	[増減率(R6比)]	—	▲14.9%	▲14.9%
	公立高(全日制)進学者数	2,763	2,325	2,241
	[増減(R6比)]	—	▲ 438	▲ 522
	[増減率(R6比)]	—	▲15.9%	▲18.9%
備北 (三次市・庄原市)	公立中卒業者数	717人	542人	542人
	[増減(R6比)]	—	▲ 175	▲ 175
	[増減率(R6比)]	—	▲24.4%	▲24.4%
	公立高(全日制)進学者数	535人	404人	394人
	[増減(R6比)]	—	▲ 131	▲ 141
	[増減率(R6比)]	—	▲24.5%	▲26.4%
県全体	公立中卒業者数	22,266人	18,914人	18,914人
	[増減(R6比)]	—	▲ 3,352	▲ 3,352
	[増減率(R6比)]	—	▲15.1%	▲15.1%
	公立高(全日制)進学者数	13,433人	11,381人	10,665人
	[増減(R6比)]	—	▲ 2,052	▲ 2,768
	[増減率(R6比)]	—	▲15.3%	▲20.6%

※年度は高等学校入学年度

※公立中卒業者数は、各市町の学年別(中3～小1)在籍者数及び年度別出生数を基に機械的に試算

※試算1は、令和6年度の各地域における進学者数の公私割合(実績値)を固定して機械的に試算

⇒ 生徒数の減少が公私ともに影響

※試算2は、令和6年度の各地域における私立高への進学者数を固定して機械的に試算

⇒ 生徒数の減少が公立にのみ影響

◇公立高(全日制)学級数見込

○令和15年度の公立高(全日制)学級数見込

- ・R6の公私割合のまま推移した場合:県全体で81学級の減少 ⇒ 18校程度の減少に相当
- ・R6の私立高への進学者数が変わらず推移した場合:県全体で97学級の減少 ⇒ 22校程度の減少に相当

※学校数は、R6の平均学級数(4.4学級/校)を基に試算

地域	区分	令和6年度	試算1 令和15年度	試算2 令和15年度
芸北	公立高(全日制)学級数	9学級	5学級	5学級
	[増減(R6比)]	—	▲ 4	▲ 4
	[平均学級数(1校あたり)]	1.8	1.0	1.0
広島	公立高(全日制)学級数	178学級	156学級	146学級
	[増減(R6比)]	—	▲ 22	▲ 32
	[平均学級数(1校あたり)]	6.1	5.4	5.0
呉・賀茂	公立高(全日制)学級数	54学級	39学級	36学級
	[増減(R6比)]	—	▲ 15	▲ 18
	[平均学級数(1校あたり)]	3.6	2.6	2.4
尾三	公立高(全日制)学級数	40学級	26学級	25学級
	[増減(R6比)]	—	▲ 14	▲ 15
	[平均学級数(1校あたり)]	3.1	2.0	1.9
福山	公立高(全日制)学級数	79学級	60学級	58学級
	[増減(R6比)]	—	▲ 19	▲ 21
	[平均学級数(1校あたり)]	4.9	3.8	3.6
備北	公立高(全日制)学級数	18学級	11学級	11学級
	[増減(R6比)]	—	▲ 7	▲ 7
	[平均学級数(1校あたり)]	2.6	1.6	1.6
県全体	公立高(全日制)学級数	378学級	297学級	281学級
	[増減(R6比)]	—	▲ 81	▲ 97
	[平均学級数(1校あたり)]	4.4	3.5	3.3

※令和6年度の学級数は、令和6年度入学定員を記載(分校含む)

※令和15年度の学級数は、各地域の公立高進学者数を基に、1学級40人として機械的に試算

※令和15年度の平均学級数は、令和6年度から学校数に増減が無い場合の数値

再編整備の考え方(案)

1 県立高等学校を取り巻く現状

(1) 少子化の進展に伴う、生徒数の減少

- 中学校3年生在籍者数は、昭和63年度をピーク(48,780人)として、減少基調で推移し、令和5年度は、ピーク時の約5割(25,234人)という状況
- 実施計画の最終年度には、ピーク時の約4割(21,357人)となる見込み

(2) 教職員定数の減少に伴い、学校再編が不可避

- 生徒数の減少に伴い、教職員定数も減少することから、多様な科目の設置が難しくなるなど、生徒に必要な教育環境を維持するためには、学校統合など、再編整備は避けられない状況

(3) いわゆる高校授業料無償化の影響

- いわゆる高校授業料無償化の影響などにより、私立学校の多くが所在する都市部を中心として、私学志向が高まっている状況

2 県立高等学校が果たすべき役割

(1) 高等学校教育の機会均等

- 少子化の進展に伴い、生徒が減少する中であっても、高等学校教育の機会均等の確保の観点から、県内各地域にバランスよく配置するなど、全県的な視野に立って教育を提供することが必要

(2) 社会経済情勢の変化や多様なニーズへの対応

- 社会の変化により、求められるニーズも多様化していることから、学校の特色化・魅力化を図り、多様なニーズに応えられる教育環境の整備が必要

3 再編整備の方向性

(1) 都市部(中山間地域以外の地域)

- 生徒が授業等において一定の選択幅を持つことができ、集団の中で切磋琢磨できる環境を整えるため、基本とする学級数※を下回ることが見込まれる学校について、近隣校との統合など、統廃合を進める。

※ 中山間地域以外の地域については1学年4～8学級の範囲内を基本

- 統合の実施に当たっては、学科を再編するなど、学校の特色化・魅力化を図る。
- 統合の実施に当たっては、施設の改修・改築を優先的に実施する。

(2) 中山間地域

- 中山間地域においては、高等学校教育の機会均等の確保の観点から、当実施計画における統合の対象とはしない。(『基本計画』の学校再編基準に従う)

4 統合校の特色化・魅力化

- 統合校においては、教育資源の集中により、機能強化を図る。
 - ・ 学科の枠を越え、総合的に学ぶことのできる複数の学科を有した学校の設置
 - ・ 企業や大学等と連携し、実社会における課題について探究することで、創造性、協調性、社会参画意識を持った人材を育成する学科の設置
 - ・ 生徒一人一人の実態や学習ニーズに応じた教育活動を実施する学校の整備

5 その他

(1) 技術革新など新しいニーズに対応する専門学科の整備

(2) 地域産業界と連携した総合学科の設置

(3) 入学者選抜の工夫

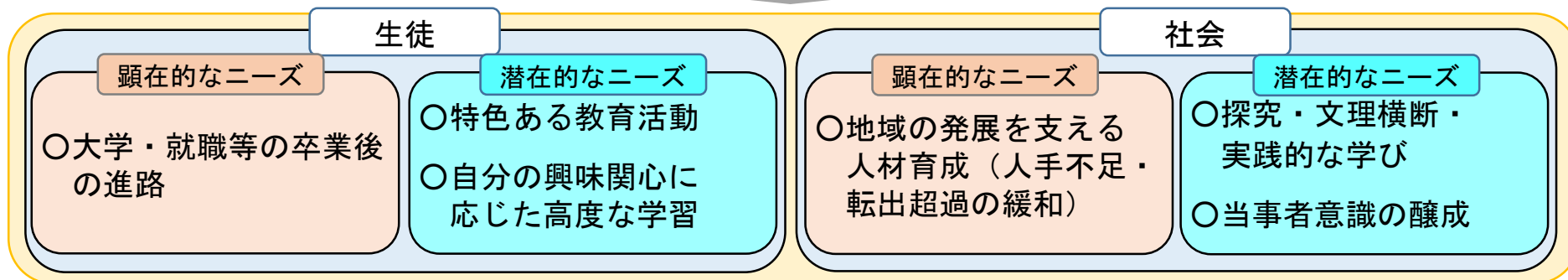
- 学校の活力維持が特に求められる学校(専門教育を主とする学科、中高一貫教育校)については、それぞれの特色に応じた入学者選抜が実施できるよう、学校独自検査の実施や別日程の設定などを検討する。
- 全国からの生徒募集が可能な学校の拡大を検討する。

「新しい普通科」の設置

補足資料

統合校の特色化・魅力化
(教育資源の集中による機能強化)

第2期基本計画で示す方向性
(普通科の特色化・魅力化)



企業や大学等と連携し、実社会における課題について探究することで、創造性、協調性、社会参画意識を持った人材を育成する学科の設置

「新しい普通科」として新設

- 文理の枠にとらわれない新しいカリキュラム
- 高等教育機関等との連携の強化
(県内大学等との連携協定等)

地域の拠点となる学校として整備